

2021年(令和3年)

11月例会

日時：11月20日(土)14時より
講師：東京理科大学 中丸禎子
題目：イシガオサムのラーゲルレーヴ受容
——キリスト教と反戦平和主義——
司会：大妻女子大学(名誉教授) 斉藤恵子

12月例会

日時：12月18日(土)14時より
講師：日本大学 マルティネス・シレス、パウラ
題目：明治期における翻訳戦略と女性翻訳家の実験的な試みについて
——若松賤子を事例に——
司会：東海大学 堀啓子

INSIDE THIS ISSUE

1. 11月・12月例会案内、オンライン開催案内
2. 例会要旨等
3. 東京支部短信

役員連絡会開催のお知らせ

2021年11月例会終了後、オンラインにて開催します。

(役員連絡会の構成員は支部長、事務局長、会計担当、事務局委員、各種委員会委員長です。委員会の委員、幹事は含まれませんが、陪席を歓迎します)

11月例会発表要旨

イシガオサムのラーゲルレーヴ受容 ——キリスト教と反戦平和主義——

東京理科大学 中丸 禎子

イシガオサム (1910-94 / 石賀修。エスペ란ティストとして固有名のカタカナ表記を主張) によるスウェーデンのセルマ・ラーゲルレーヴ(1858-1940) の反戦平和主義作家としての受容を分析する。本発表は、近代日本の北欧受容研究の一環である。その目的は、男女平等や福祉、教育の先進国として知られ、「幸福度ランキング」の上位に位置づけられるなど理想的なイメージで語られる北欧像の源流を、近代日本文化史に批判的に位置づけることにある。一方、ドイツにおいて、ラーゲルレーヴはゲルマン民族主義を体现する作家として称賛された。ドイツにおける受容は、日本における受容と一見正反対に見える。しかし、日独の受容およびラーゲルレーヴのテキストを精査すると、日独の受容は同じ根を持つ思想・文化の別の側面である可能性が指摘できる。

ラーゲルレーヴは『ニルスのふしぎな旅』(1906/07) の作者として、女性初・スウェーデン人初のノーベル文学賞受賞者(1909)として知られ、1905年以降現在まで、100種類以上の翻訳が刊行されている。その中で重要な役割を果たしたのがキリスト者、とりわけ無教会グループである。中でもイシガの翻訳は、数、作品の長さや難易度、携わった期間において群を抜いている。イシガは、内村鑑三、賀川豊彦、矢内原忠雄らに私淑し、まずはエスペラントから、次にスウェーデン語を独習して原語からラーゲルレーヴを翻訳した。大著『エルサレム』(原著第一部 1901・第二部 1902 / 翻訳第一部 1942・第二部 1952) 訳了後の 1943 年 7 月、イシガは War Resisters' International のメンバーとして兵役拒否を表明し、憲兵隊に拘留された。同年 12 月に翻意して釈放され、戦後は高校教員を務める傍ら、1980 年代まで反戦平和主義作家としてのラーゲルレーヴの翻訳を続けた。

本発表では、キリスト教の北欧受容を概説したのち、イシガオサムのラーゲルレーヴ論を分析し、キリスト教およびイシガにおける平和主義と戦時思想との背反性・親和性を考察する。

12月例会発表要旨

明治期における翻訳戦略と女性翻訳家の実験的な試みについて ——若松賤子を事例に——

日本大学 マルティネス・シレス、パウラ

本発表では、アデレード・アン・プロクター (Adelaide Anne Procter, 1825-1864) の物語詩 “The Sailor Boy” (1858) の若松賤子 (1864-1896) による日本語翻訳「忘れ形見」(『女学雑誌』, 1890) について論じる。

若松賤子は明治期の児童文学の先駆的な翻訳者の一人であり、その児童文学への貢献は広く認められてきた(山口1980, Copeland 2000, 尾崎2007, 小檜山2020)。しかし、チャールズ・ディケンズ、フランシス・バーネット、ワシントン・アーヴィングなど数多くの翻訳や翻案を手掛けてきたにもかかわらず、当時の男性翻訳家と比べて、賤子の翻訳戦略と翻訳法とは、トランスレーション・スタディーズ (Translation Studies, 以下 TS) の分野では、然るべき評価がなされてきたとは言い難い。

本発表では、若松賤子の翻訳作品の中から「忘れ形見」を取り上げ、起点テキストと目的テキストを比較・分析して、賤子の翻訳の戦略を見極めることを目指す。「忘れ形見」においては、起点テキストであるプロクターの詩が物語形式に翻案され、イギリス文化と関連した文化的レファランス (地名、階級、人物名など) は完全に受容化 (domesticated) された一方、原作にはない起点文化的レファランスや多くのオノマトペも導入された。その上、若松賤子は、当時女性作家がなかなか使えなかった言文一致体を取り入れて、読者が翻訳を児童に読み聞かせることを可能にし、読者層を拡大したと考えられるのである。また、「忘れ形見」の主人公である幼い男の子の「一人称語り」を言文一致体で翻訳することは若松にとって、「女らしい」語り手や、女ことばの代表的な語法である女性文末詞の使用から解放されて、女性翻訳家として性による制限の少ない「ジェンダーレスの空間 (un-gendered space)」に入ることを意味した。

若松賤子の翻訳方法の検証を通じて、TS およびフェミニスト・トランスレーション・スタディーズ (Feminist Translation Studies) の新たな領野の可能性が切り開かれることを示したい。

東京支部短信

当面の例会運営に関するお知らせ

- ①例会開催の概要は、これまで印刷物のニューズレターで年2回、3月と9月にお知らせしてきましたが、今後は、年4回に分けてホームページに情報を掲載する予定です。3月に4月、5月分の、5月に7月、9月分、9月に11月、12月分、さらに11月には翌年1月、3月分の例会情報（日時、発表者名および題目、要旨）を掲載します。
- ②2021年度のオンラインによる例会開催については、当面、以下のように連絡する予定です。該当月の例会開催日の1週間前に、支部会員向け一斉メールで、開催内容（ホームページ掲載と同様）とともに、当日Zoomに入室するためのURLを送付します。その際、ホームページにも、会員に入室用URLを送付した旨を掲載しますので、メール不着の場合は事務局にご連絡ください。
- ③例会開催時は、従来配付していた発表者の資料は、画面共有で見えることを基本とします。発表を希望される方は、パワーポイントやワードなどで、当日の資料を作成することをご了解ください。なお、資料は、発表原稿そのものではないものとします。また、発表者は、音声のみの参加ではなく、カメラ使用を基本とします。
- ④Zoom への入室は、メールで送付された入室用 URL をクリックすれば可能です。当日の参加に際しては、発表中はカメラ・音声をオフにさせていただきます。

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』への投稿について

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』は、毎年一回、3月末日に発行されます。新型コロナウイルス感染症の流行が続き、研究発表の機会が少ない現状に鑑み、研究論文投稿資格を有する者は、東京支部会員のすべてとします。なお、多くの大学、研究機関では電子的な方法で発表された論文についても、正規の研究業績として認められています。投稿論文の提出期間は11月1日から11月30日まで、送付先は下記の通りです。ふるって投稿をお待ちしています。

日本比較文学会東京支部編集委員会委員長 椎名正博 pegasus@w2.dion.ne.jp

詳しい投稿規定および執筆要領、投稿用のテンプレートは東京支部ホームページに掲載されていますので、どうぞご覧ください。ご質問がある方は支部事務局に電子メールでお問い合わせください。

東京支部短 信

月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。申し込みは支部事務局（hikakubungaku-tokyo@gmail.com）に氏名、所属、題目、連絡先（メールアドレス、電話）を明記したうえで、600～800 字の要旨を添えて電子メールで送信、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は 45 分(質疑応答を除く)です。

東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員みなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月 1 日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。これまでお手元に届いていない方は、日本比較文学会東京支部の支部会員のページの「お知らせ」のウェブサイト（<https://www.hikakutokyo.com/mm>）のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスで再登録をお願いします。

日本比較文学会東京支部ニューズレター 131 号

発行人：佐藤 宗子

編集委員会（編集担当）

委員長：椎名 正博

委員：鈴木 美穂 堀江 秀史 安元 隆子 庄子 ひとみ

事務局

事務局長：源 貴志 会計担当：南平 かおり

事務局委員：川野 礼音 小泉 泉 土田 久美子

芳賀 理彦 畑中 健二 蒔田 裕美

JCLA

日本比較文学会東京支部

事務局住所

〒162-8644

東京都新宿区戸山 1-24-1

早稲田大学 文学学術院

源 貴志研究室

TEL : 03-5286-3725